



五人組は、どんな制度だったの



農家5けんを一組とし、組内でたがいに見張らせたり、共同で責任を取らせたりした制度だよ。

五人組は、5けんの家を一組とするグループで、とよみひでよし豊臣秀吉が1597年に京都でつくったのが始まり、といわれています。

農民どうしの見張りや共同責任が目的だった

江戸時代の農村の五人組は、領主が農村を支配しやすくするために、農民どうしで見張らせたり、共同で責任を取らせたりしたものです。そのおもな目的は、次の通りです。

組内にキリスト教徒がいたらみっこく密告させる。ほかの組の者から、キリスト教徒がいることを見つけられたときは、組中の者にばっ金を支払わせる。

はんざい犯罪を行う者が出たときは、組中の者をばっする。

ねんぐまい年貢米を納める責任を、共同でもたせる。決まった量を納められない者が出たときは、組内のほかの者が不足分を納める。

農家の組み合わせ方は、いろいろあった

五人組のつくり方には、となり合う5けんずつをまとめる方法、各組の米の生産高が同じくらいになるよう、生産高の多い家と少ない家を組み合わせる方法、の二つがありました。 の場合には、組み合わせを毎年変えることも行われました。

組の代表者はごにんぐみがしら五人組頭

各組には、五人組頭がいました。これは五人組の代表者で、組内をまとめる仕事をしましたが、村内の政治に直接参加することはなかったのです。